

平成26年度決算の概要

◎一般会計

※（ ）内は主要施策報告書のページ

1. 決算の状況 (P3, P4)

歳入決算額	19,379,183千円
歳出決算額	18,409,291千円
歳入歳出差引額	969,892 千円
翌年度へ繰り越すべき財源	99,366千円
実質収支額	870,526千円

○歳入

市税は全体としては、1. 1%の増となりました。交付税については、普通交付税が7. 4%減、特別交付税が0. 3%増となり、全体としては6. 2%の減となりました。市債については臨時財政対策債が7. 3%の減、市債全体としては5. 2%の増となりました。歳入全体としては、前年度比4. 5%の増となりました。

○歳出

陸上競技場において、2種公認を継続するための改修工事を行いました。また、学校施設においては、小郡小学校大規模改造事業を実施したほか、全小学校に空調機を設置しました。その他、災害対策として、災害避難所である総合保健福祉センター「あすてらす」などに太陽光発電と蓄電池を組合わせた防災型太陽光発電の設置や迅速な情報伝達手段を確保するため防災行政無線の整備を行いました。歳出全体としては、前年度比4. 7%増となりました。

2. 市債と基金の状況 (P6)

(単位：千円)

	H22	H23	H24	H25	H26
地方債現在高	19,775,472	19,230,602	18,743,652	18,540,667	18,337,677
うち臨時財政対策債	5,894,116	6,623,996	7,322,650	8,037,044	8,610,805
基金現在高	3,327,415	3,766,384	4,354,384	4,709,206	4,400,031
うち財政調整基金	2,811,901	3,211,901	3,611,901	3,711,901	3,414,549

地方債現在高については、前年度末より約2億円の減。

基金については財政調整基金を3億円取崩し、庁舎建設基金に1億円、土地開発基金に3,700万円の積み立てを行いました。

3. 主要指標の状況 (P9, P10)

	H22	H23	H24	H25	H25
経常収支比率	90.0%	91.5%	94.2%	92.5%	97.1%
実質公債費比率	14.9%	13.9%	13.5%	13.0%	12.6%
将来負担比率	102.9%	92.7%	81.4%	76.4%	73.8%

財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より4. 6ポイント増の97. 1%となりましたが、地方交付税収入の減がその主な要因です。

財政健全化判断比率については、いずれの比率とも早期健全化基準内となっています。実質公債費比率については、昨年度より0. 4ポイント改善され12. 6%となり、将来負担比率については、2. 6ポイント改善され73. 8%となりました。

(実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、黒字のため算定されていません。)

◎特別会計

区分	歳入 (A)	歳出 (B)	差引 (A)－(B)	翌年度へ繰り越すべき財源				実質収支
				継続費 通次 繰越額	繰越 明許費 繰越額	事故 繰越 繰越額	計	
国民健康保険事業特別会計	5,891,042	6,713,668	△ 822,626					△ 822,626
後期高齢者医療特別会計	832,464	807,943	24,521		404		404	24,117
介護保険事業特別会計 (保険事業勘定)	3,525,439	3,502,311	23,128					23,128
介護保険事業特別会計 (介護サービス事業勘定)	43,307	28,268	15,039					15,039
下水道事業特別会計	2,262,439	2,258,961	3,478		3,006		3,006	472
住宅新築資金等貸付事業 特別会計	9,617	43	9,574					9,574
工業団地整備事業特別会計	21,322	21,272	50		50		50	0